A 類機関区域における燃料油タンクの配置に関する事項

改正要領

鋼船規則検査要領 R 編

改正事項

A 類機関区域における燃料油タンクの配置に関する事項

改正理由

A 類機関区域内に配置される燃料油タンクに関して、その底面は原則として二重底タンク頂板と共通とし A 類機関区域に面しないことが望ましい旨 SOLAS 条約第 II-2 章第 4.2.2.3.2 規則において規定されている。当該規定の解釈として、本会規則では、燃料油タンク底部にコファダムを設ける配置を認めており、この場合には、当該コファダム下部に発火や延焼の危険性が高い機器等を設置しないことを条件としている。

一方、近年の環境規制の強化に伴い、機関室内にはバラスト水処理装置等の機器が追設されるようになり、機関室におけるスペース確保が困難になってきている。そのため、造船所においては機関室のスペースの有効活用が課題となっており、様々な検討が行われている。

このような状況を考慮し、本会規則を見直した結果、近年の SOLAS 条約改正により清浄機等の発火や延焼の危険性が高い機器等には固定式局所消火装置等が設けられており、火災への安全性は向上していることから、今般、燃料油タンク下部に清浄機等の機器の設置が可能となるよう関連規定を改めた。

改正内容

燃料油タンク底部に設けられるコファダムについて、当該コファダム下部に配置される機器に関する要件を改めた。